

◎自由発表（第2会場）

【演題等】「中学生熟議を通じた発達支持的生徒指導の取組」

【講演・発表者】 和歌山県教育庁学校教育局教育支援課 指導主事 吉見 昂志
指導主事 小池 亨

・発表概要

令和5年6月4日に開催した和歌山県中学生熟議（県内の中学生が集い、テーマに沿って熟慮・議論を行う取組）の取組が、発達支持的生徒指導として有効な取組であったことが発表された。今年度は「南海トラフ地震に備えて、中学生ができること」をテーマに4年ぶりの対面形式で行われ、47名の中学生が参加したという。ことで、熟議当日の様子や熟議の開催2日前に大雨災害が和歌山県を襲い、被災直後の開催となったことなどが紹介された。また、熟議の取組だけでなく、防災教育についても期待される効果が発達支持的生徒指導と共通することを挙げ、生徒指導の重層的支援構造を防災教育に置き換え、平時の備えや未然防止の取組、災害時の取組について説明された。最後に、熟議に参加した中学生の感想から、主体的に考え、他者の意見を交えていく中で、気づきや感じ得た内容が紹介された。熟議の取組が、主体的・対話的で深い学びを実現し、自己有用感の育成や共感的な人間関係の構築などに有効であったと発表された。

・発表要旨

1 和歌山県中学生熟議とは

和歌山県では、「和歌山県中学生熟議」と題して10年以上前から、県下の中学生を集めてテーマについて熟議を行っている。今年度は4年ぶりに対面形式で行い47名が参加した。今年度のテーマは「南海トラフに備えて、中学生ができること」とし、「防災」について熟議を行った。熟議とは「熟慮＝よく考えること、議論＝それぞれが自分の意見を出し合うこと」である。熟議によって、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全安心な風土の醸成が期待される。

2 防災教育の効果

（1）防災教育と発達支持的生徒指導

防災教育は、災害時に自分と周りの人の命を守るだけでなく、主体性や社会性、郷土愛、地域を担う意義、地域の防災力、課題解決力、問題達成力の向上が期待される。これらは発達支持的生徒指導との共通点も多い。

例えば、避難所運営学習や地域防災マップの作成では、自ら考え、選択し、決定、発表する過程があり、「自己決定の場」となっている。また、生徒が地域の防災訓練に参加すれば、地域の担い手としての自覚が芽生えるとともに、地域の期待を受けることで、自己存在感や自己有用感が育まれる。

（2）防災教育と生徒指導の重層的支援構造

熟議の直前に発生した大雨災害を例に、防災教育を生徒指導の重層的支援構造で考えた。災害発生は、困難な課題が起こり、「困難課題対応的生徒指導」が必



要な状況である。また、平時の防災教育は、日々の働きかけである「発達支持的生徒指導」となり、災害時における諸課題の未然防止をねらいとした「課題未然防止教育」と考えられる。

3 和歌山県中学生熟議と発達支持的生徒指導

今回の熟議は、大雨災害の2日後に開催し、会場（湯浅えき蔵）は前日まで避難所として使用されていた。そのため、参加者全員の防災意識が高まった中での開催となった。生徒は、参加当初、表情も固かったが、自分の考えを伝え、他の参加者からの共感を得ることで自信がつき、また相手の意見に感銘を受けることで表情や取組む姿勢に変化がみられた。

生徒の感想には、命について考えるものや、他者の様々な考えや意見を聞き、多角的理解や考察等を含めた感想が多くみられた。これらの感想から、生徒が主体的に課題を発見し、自分の考えを発言し、熟議の目標を達成することができたのではないか。その主体的な議論に加え、教職員の声かけや賞賛などの支えによって、発達支持的生徒指導の成果につながった。

この取組は、生徒の社会的自立を「させる」教育ではなく、教職員が生徒指導の観点から日常的に働きかけ、生徒の社会的自立を「支える」教育につながると考え、さらにより良い取組に成長させていきたいと考える。

・質疑応答の概要

- Q 1 中学生熟議の場で決まったものを県で発信することは考えているか。また、県内の各中学校でも「中学生熟議」を進める予定はあるか。
- A 1 中学生熟議の取組は、県教育委員会のホームページなどに今後掲載を予定している。各中学校での取組は把握していないが、生徒会を中心に話し合いは行われていると考える。
- Q 2 少子化が進む中で郷土愛を育む教育、和歌山県らしい防災の教育・伝統はあるか。
- A 2 「津波の日（11月5日）」の前後で全県下で濱口梧陵（広川町）氏の「稲むらの火」などを題材に行われている。